

この先の、
向こうへ



「このすばらしき世界を諦めずに走る」

脚色・演出 柴崎喜彦

人は、人生という長い道を、走る。辛かったり、悩んだり。そして同じように多くの人がその道を走っている。その道は時に交わり時に大勢の太い道になったり、ひとり走る細い道になったり。

今、若者の孤独が深刻化しているのだそうだ。生きる目的がわからず、自分の居場所を見失い走るのを断つ者も少なくないと聞く。胸が締めつけられる。人は周りに迷惑をかけなければ生きられない生き物だ。自分が生きることで誰かを、何かを、傷つけているかもしれない。頑張っても苦労だけして今と同じ景色のままかもしれない。

でも、社会は人が支えあって成立するのであり、誰にも必要とされない人間は存在しない。自分が生きることで誰かを、何かを、救っている場合もきつとある。生きれば、人生を、走るのを諦めなければ、今よりも“幸せだ”と感じられることがあると信じていたい。そしてきつと、今、みてる景色とは違うものがみえたと信じている。この世界は孤独ではなく、たくさんの生命が一緒に走っているのだから。

この舞台のテーマは“諦めないで走る”こと。ほんの少しの勇気と自信と覚悟と自由を求め、今の自分からその先に行こうと決めた者たちへの応援歌として、この作品を届けたいと願っている。

ねこはいる

原作／工藤直子（童話屋刊） 脚色・演出／柴崎喜彦
人形デザイン／八代健志 人形製作／坂上浩士
装置／阿部銀子 音楽／富貴晴美 振付／菊地美雅
照明／芦辺 靖 音響効果／川名 武

らんは、黒猫。のろまで、何もうまく出来ない。心の穴は、ぽっかり開いたまま。魚は、ひとり、池にいる。この先の向こうへ行くことを夢見ている。ふたりは出会い、互いの存在が生きる喜びへ。しかし、ふたりに突き付けられる過酷な運命。らんの出した答えとは一。

工藤直子さんの瑞々しい言葉にあふれた原作を人形劇化。「一歩先へ、今と違うところへ」今を生きる若者たち、おとなたちをいざないます。

